

## 9. AHA-BLS ヘルスケアプロバイダー資格取得が 看護系大学生の行動に及ぼす影響

岡本華枝（岐阜聖徳学園大学）

### I. はじめに

2014年からA大学では、卒業前教育の一環として、医療従事者向けの一次救命処置の知識と技術を修得する目的で、希望受講者を対象にAHA-BLSヘルスケアプロバイダーコースを開催している。AHA-BLSヘルスケアプロバイダーコースを受講した看護系大学生の、資格取得目的および資格取得後の行動について検討したので報告する。

### II. AHA-BLS ヘルスケアプロバイダー資格取得状況

3年間で59名の看護学生が、AHA-BLSヘルスケアプロバイダーを資格取得した。

受講年度	学年・受講者数
2014年度	4年次生・25名（男性0名、女性25名）
2015年度	3・4年次生・14名（男性2名、女性12名）
2016年度	4年次生・20名（男性2名、女性18名）

### III. 受講目的と資格取得を活かした行動

2014年度の受講学生に受講の目的・動機、意識の変化について自由記載のアンケート調査を実施した。アンケート調査は、関西福祉大学看護学部倫理審査委員会の承認を得た。2014年度の受講学生25名中18名（回収率72%）からアンケートの回答が得られた。AHA-BLSヘルスケアプロバイダー資格取得の目的内容を集約すると、「緊急時に対応できる看護師になるための自信」「急性期・救急関連病院就職前のスキルアップ」「変化する新しい知識や技術の学びの習得」であった。

2015年度は、AHA-BLSヘルスケアプロバイダーコースを受講した学生から希望者を募り、消防署での1週間の救急車同乗体験・救急実技体験等に5名、フルマラソンAED救護班として2名の学生が参加した。2016年度は、フルマラソンAED救護班として7名の学生が参加予定である。これらは、教員が情報提供を行い、学生自らが参加を申し出たものであった。「プロバイダー資格を取得して自身の行動が変わったことは」の問いに、「外出先でAEDの場所を確認している。」「日常生活の中で緊急時の対処方法を考えたり、話し合ったりしている」「公共の場で躊躇せず困っている人に声を掛けるようになった」「より看護に興味を持ちAED救護班の参加など積極的に行動できるようになった」等の回答が得られた。受講学生らは、日々の生活の中で緊急対応場面を想定し、他者と話し合ったり、声を掛けたり、資格取得を活かした活動を実践していた。

### IV. まとめ

看護学生のAHA-BLSヘルスケアプロバイダー資格取得という明確なゴールは、卒業前から日々の生活の中で、医療従事者を目指すものとしての意識や行動を変えるきっかけになっているようである。今後も、継続的にAHA-BLSヘルスケアプロバイダーコースが開催できるよう尽力したい。